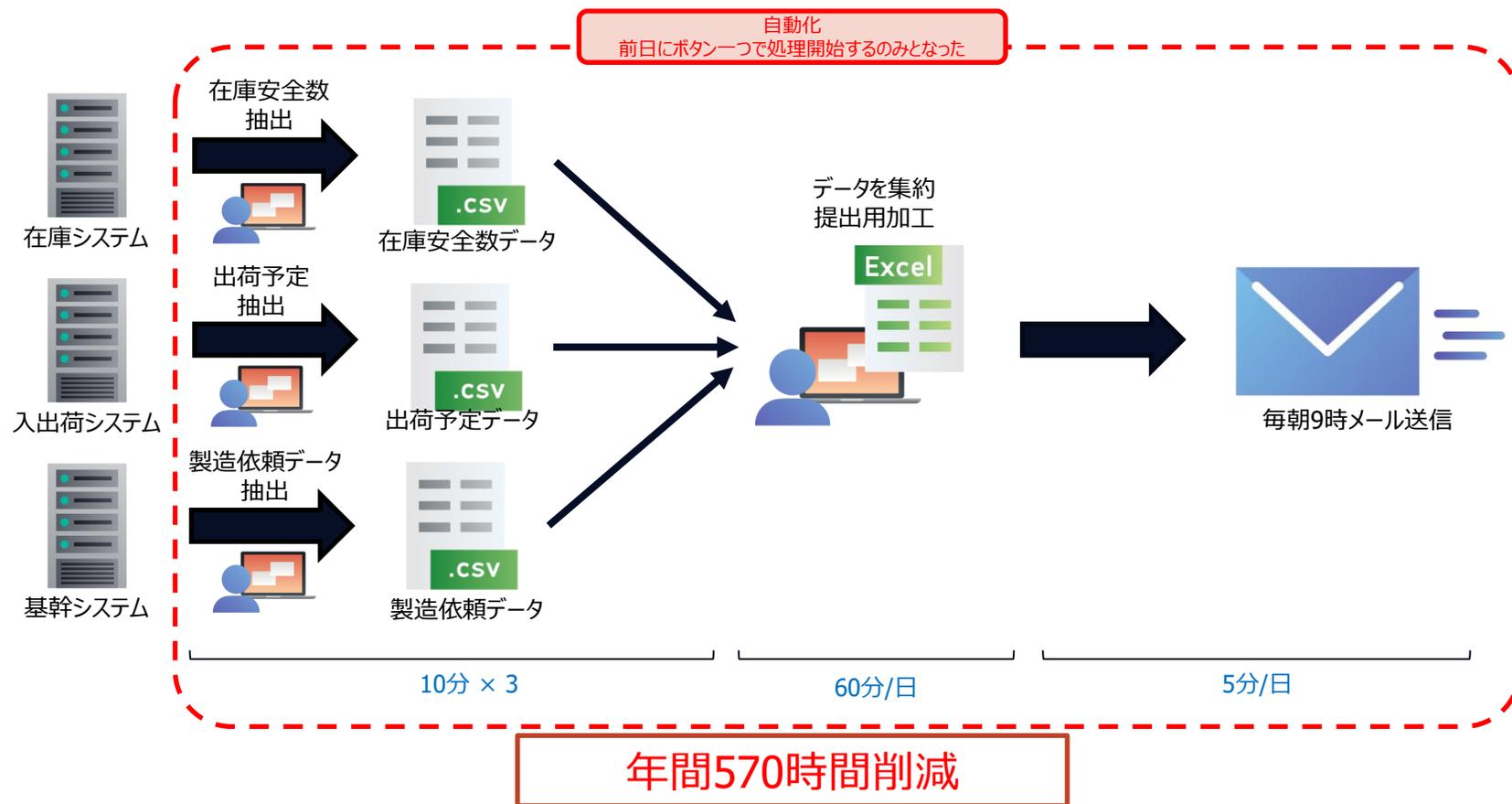


## 製造業\_(製造) 3つのシステムからデータを抽出し、加工したものをメールで送信する

安全在庫数、出荷予定数、製造依頼データをメールの本文に記入し、翌朝9時に担当者に送信する業務を毎日行っていた。それぞれ違うシステムからデータを抽出してから提出用データを作成しているため、人手と時間がかかっていた。各システムのデータ抽出からデータ加工、メール送信まで全て自動化することで、前日の業務のみにできたうえ、業務時間削減に成功した。

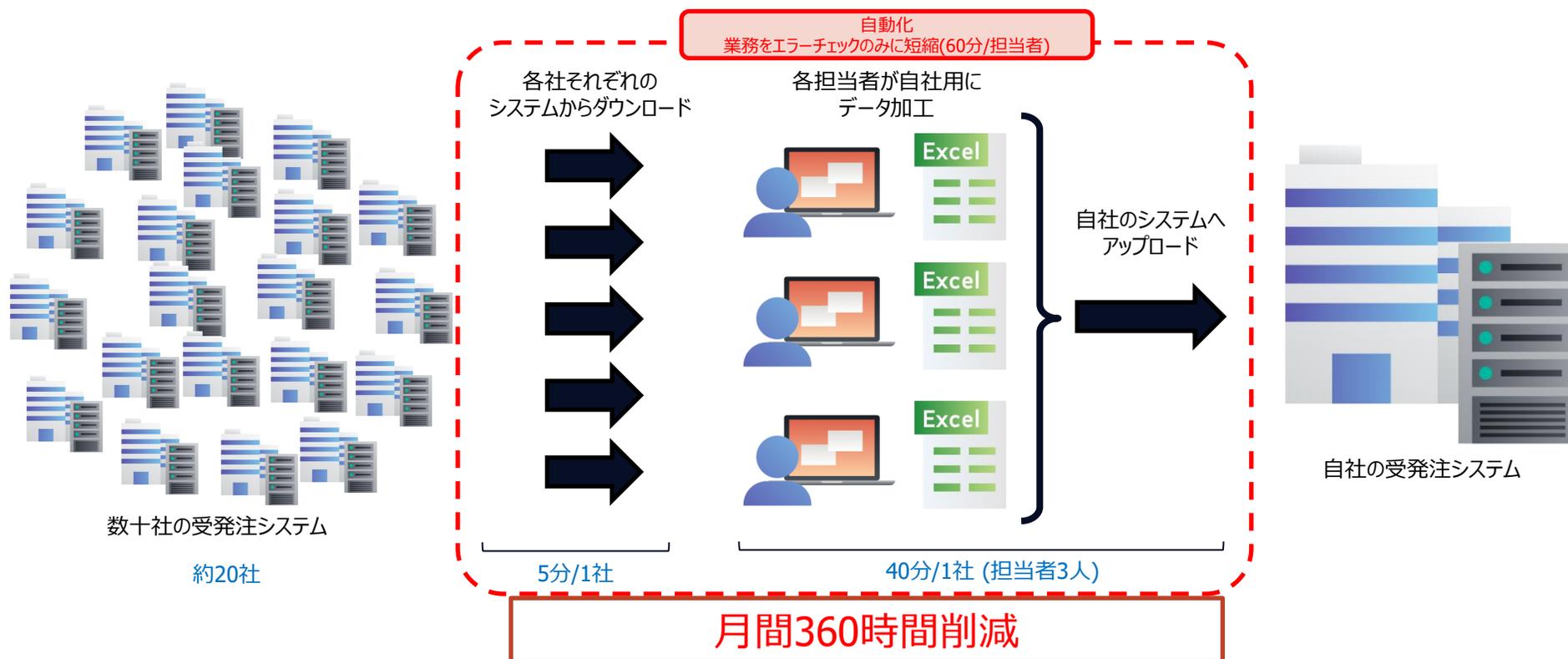


## 製造業\_(製造)数十社の異なるシステムから受注データをダウンロードし、自社受発注システム用に加工し取り込む

複数の取引先から受注データをダウンロードし、データ加工する業務を行っていた。

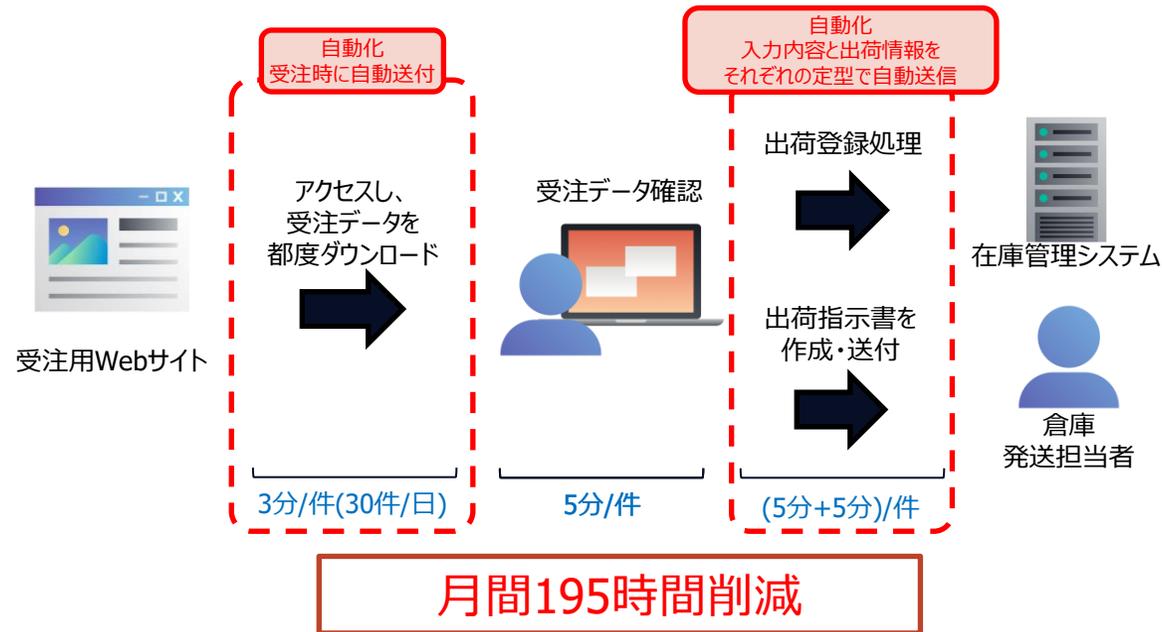
それぞれ方法が異なるうえに複数社あるため量が多く、入力ミス・漏れが頻発していた。

そこで、ダウンロードからデータ加工、自社システムへアップロードを行うところまで自動化することで、業務時間の短縮、入力ミス・漏れ防止に成功した。



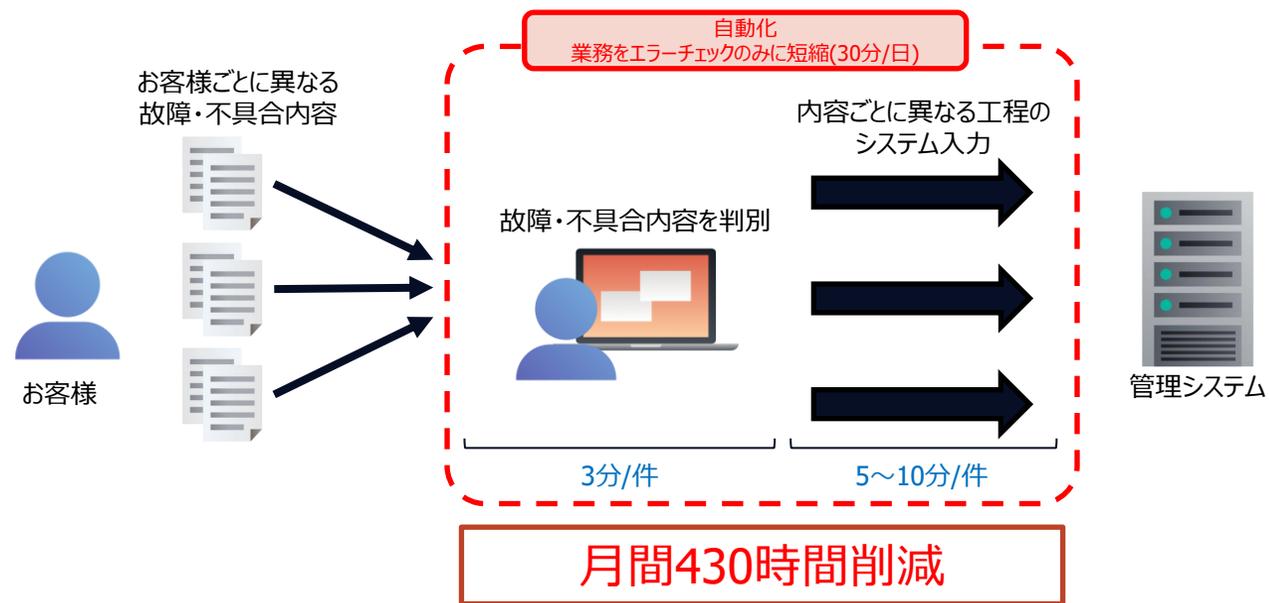
## 製造業\_(製造)自社サイトの受注データを都度ダウンロード・確認し、在庫管理システムへ入力と出荷担当へ指示を行う

Webからの受注データを都度ダウンロードし、確認しシステムに出荷登録と出荷担当者に指示を行っていた。受注確認は定期的に行っており、出荷登録と出荷指示は別々に行っていた。受注時に受注データが自動で送付されるようにし、確認後の出荷登録と出荷指示を自動化することで一括処理が可能となり、タイムリーな対応と業務時間削減を実現した。



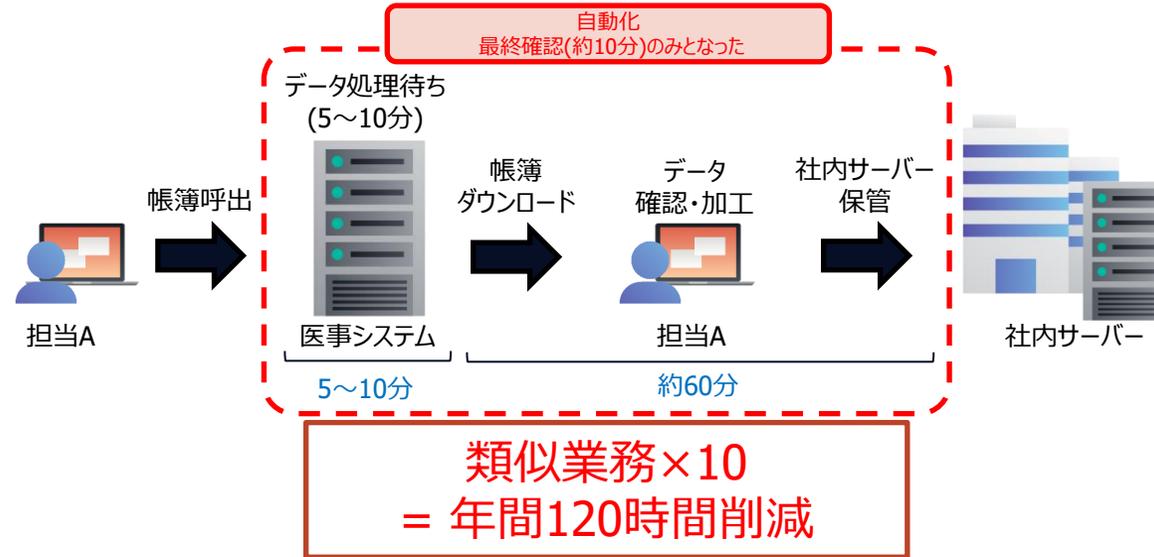
## 製造業\_(製造)申請内容を個別に判断し、内容ごとに異なる工程でシステム入力を行う

故障・不具合対応の際に、申請内容別に入力していた。月間約3500件の大量の定型業務を人力で判別・入力を行っていたうえ、内容ごとに処理工程が異なる複雑な業務となっていた。そこで、申請内容別にシステム入力する業務を自動化することで、人の業務を申請エラーの対応のみにすることができた。



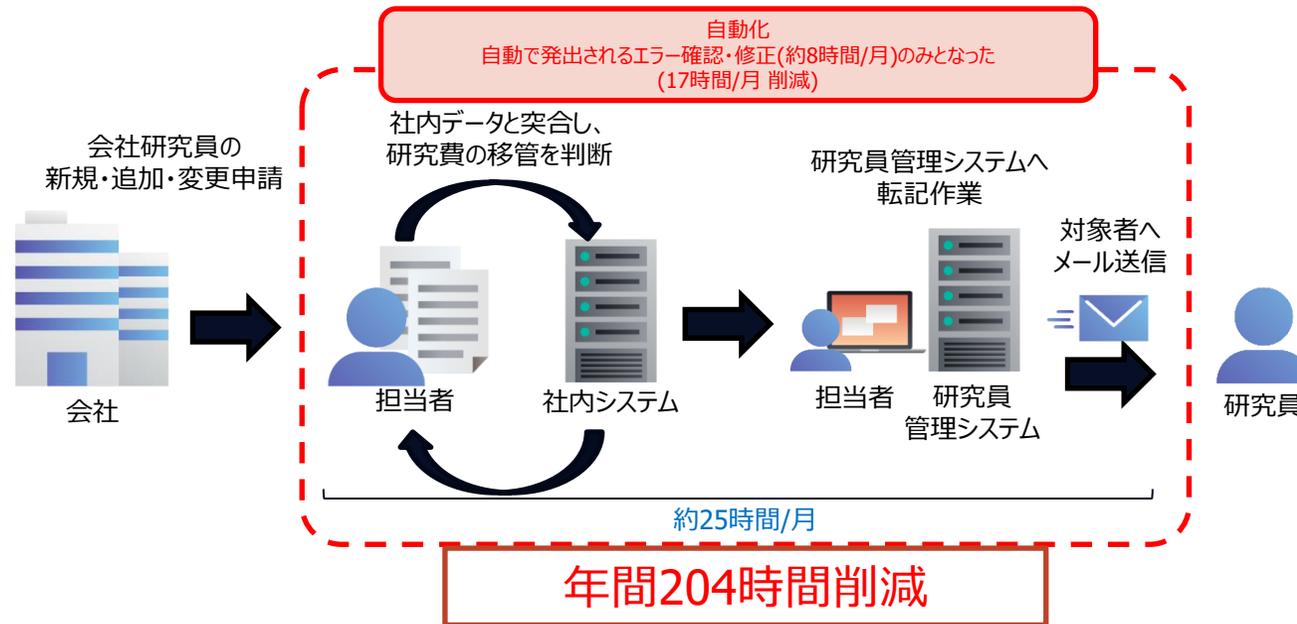
## 医療, 福祉\_(医療)医事システムから抽出した帳簿を加工し、社内サーバーに保管する

毎月、医事システムから抽出した帳簿を報告用に加工し、社内サーバーに保管する定型業務を行っていた。実施のたびに帳簿データの呼び出しに時間がかかり、抽出後も加工も手作業で行うため無駄な時間がかかっていた。帳簿データ呼出後のダウンロードからデータ加工まで自動化することで成果物の確認作業だけとなり、今までかかっていた時間を別業務に充てることができるようになり効率化された。



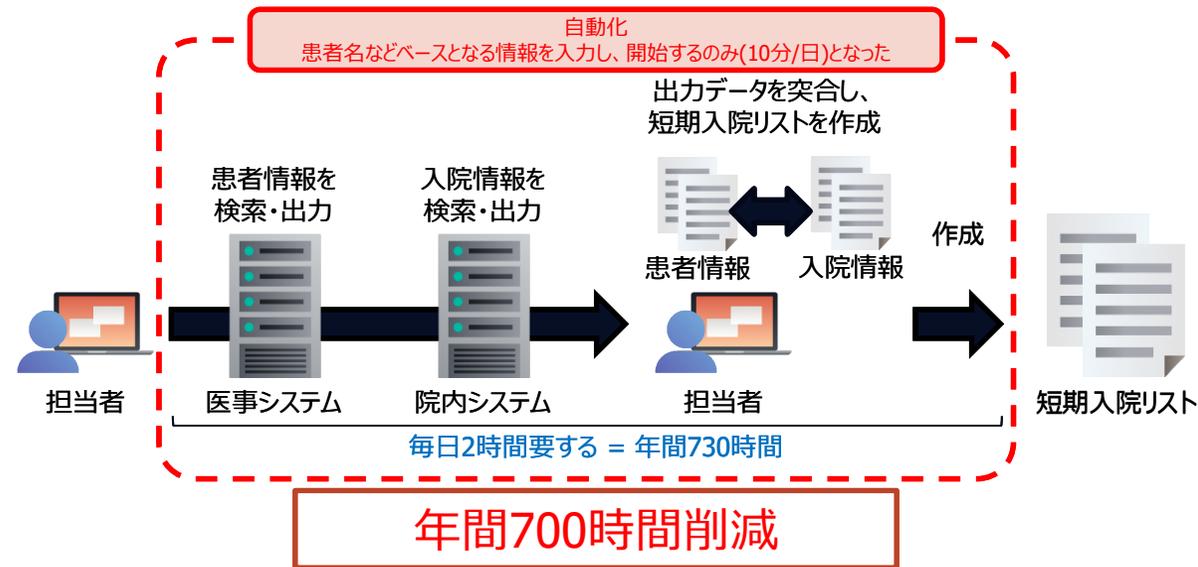
## 医療，福祉\_(医療)申請内容と社内データを突合し、システム転記と報告用に成型したデータを送付する

研究員の新規・追加・変更申請を2つのシステムと突合・転記・登録し、対象者へメールを送る作業を行っていた。定型作業だが、社内システムのデータを見て判断を行った後、外部の研究員管理システムへ登録する作業を人力で行うためミスや漏れがあり、対応にも時間が割かれていた。そこで、判断条件を設定し自動化することで、申請処理開始から対象者へメールを行う流れを全て自動化でき、突合エラーの確認・修正のみとなった。



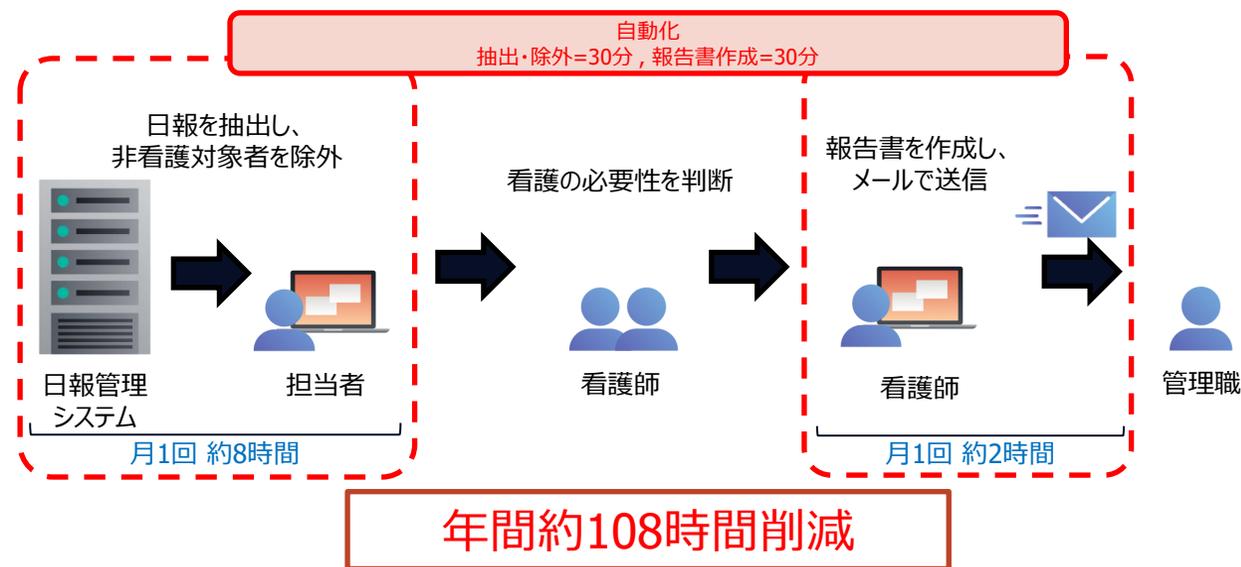
## 医療，福祉\_(医療)入院情報を突合し、短期入院リストを作成する

患者情報と入院情報突合し、短期入院リストを作成を行っていた。患者・入院情報はそれぞれデータ量が膨大なため処理・作成に時間がかかり、処理件数も多いことからミスが多発していた。突合ルールを決めることで、患者検索から短期入院リストまで自動化することができた。



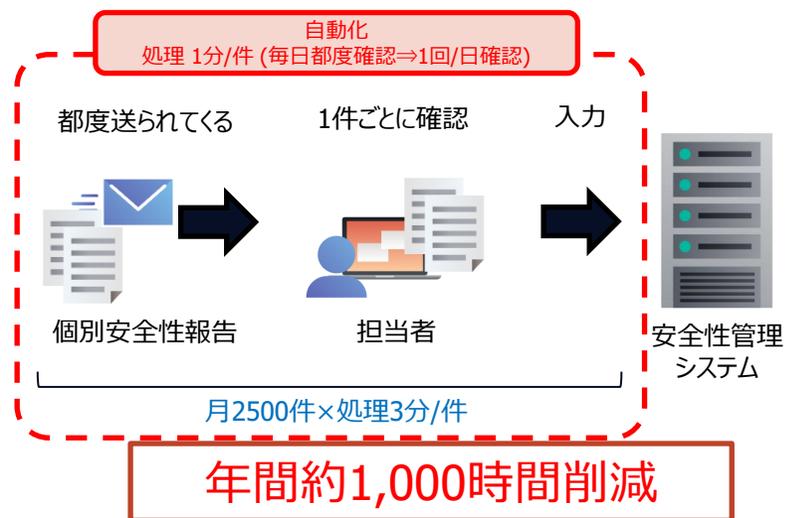
## 製造業\_(製薬)毎日、患者リストから看護対象者を判断し、報告書を作成しメールする

毎月、患者リスト抽出し、看護対象者を判断する業務を行っていた。日報管理システムを目視で確認し、手作業で非対象者を一人ずつ除外し、ミスの見直しも行っており、数も多いことから業務負担が高かった。非対象者のパターンは決まっていたため、非対象者の除外を自動化することで業務を高速化できたうえ、ミスをなくすことができた。



## 製造業\_(製薬)都度送付される報告書を管理システムへ入力する

都度送付される個別安全性報告を安全性管理システムへ入力する業務を行っていた。pdfで送付されるため、目視で確認し手入力を行い、ミスの確認まで実施していた。メールが送付されるたび自動で業務を開始し、pdfの文字データ化から一覧化、一覧化したものをシステムへ入力する業務を自動化し、人が行う業務はシステム入力前の確認のみになった。



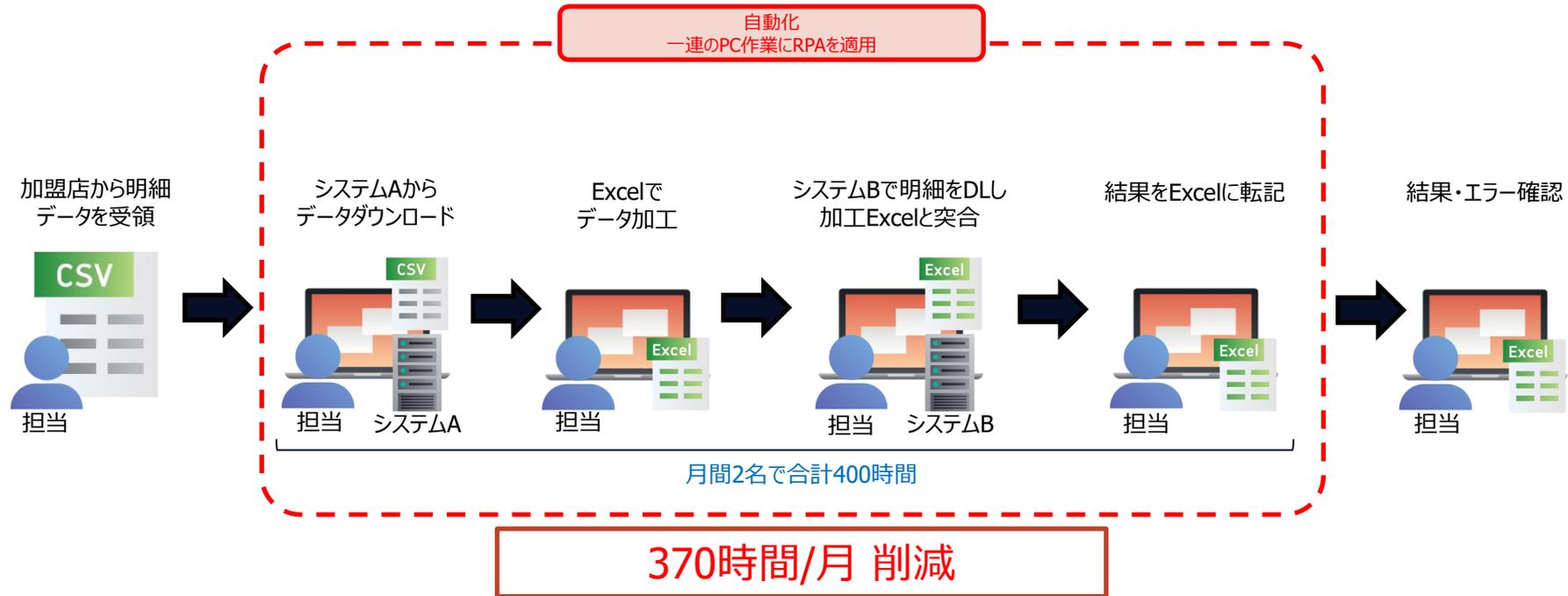


## 金融業、保険業\_(金融)毎日2つの異なるデータ形式を抽出し、差異の突合・消込を行う

毎日、クレジットカード・デビットカードのオーソリデータと加盟店の確定明細データをダウンロードし、突合・消込作業を行っていた。

近年、デビットカード使用が大幅に増加したことで、増員が必要な状況となっていた。

改めて業務手順を見直し、自動化効果が高い業務にRPAを適用することで増員不要となり、業務時間も削減できた。

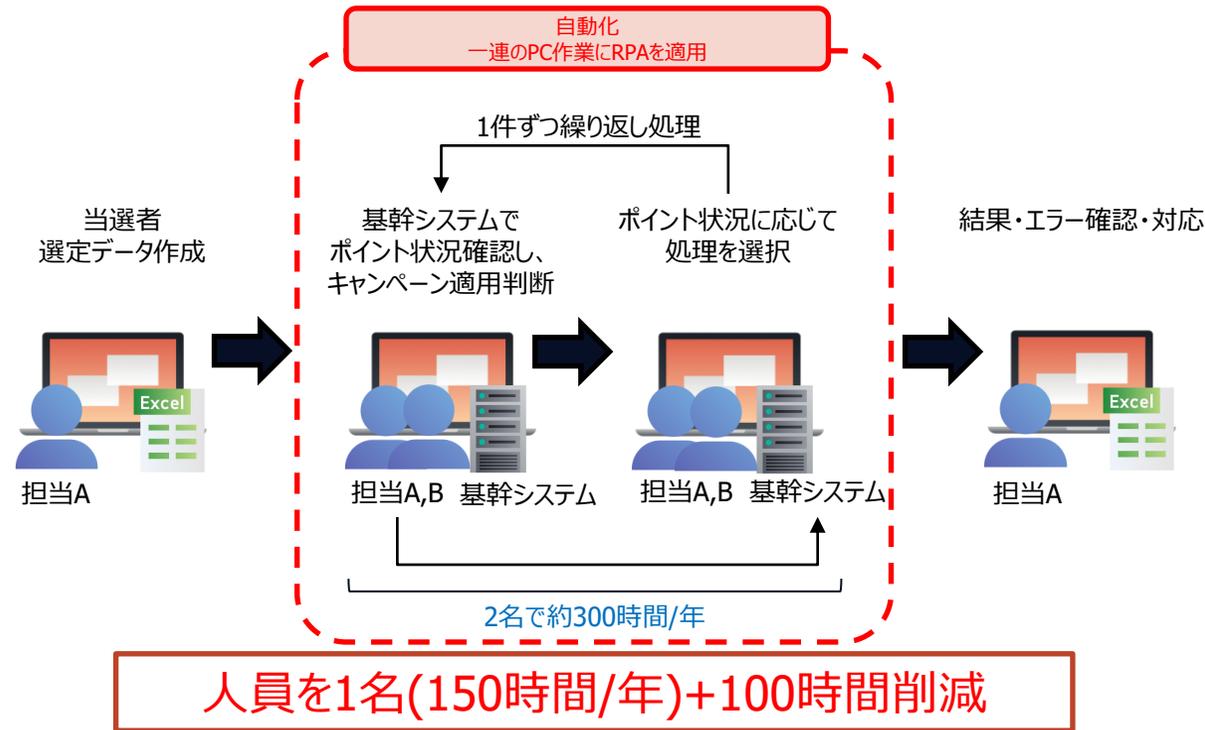


## 金融業、保険業\_(金融)キャンペーンの当選者のポイントデータを操作し、特典を適用する

毎月ポイントを付与するキャンペーンを行い、顧客のポイントデータを操作することで特典を適用する業務を行っていた。

特典付与の処理は人手で行っており、会員数が多くキャンペーン当選者も数百人に上ることから多くの時間を要していた。

非定型な当選者選定と一覧化までは人手で行い、ポイント適用作業となるシステムの繰り返し操作は自動化することで大幅に作業時間を削減した。

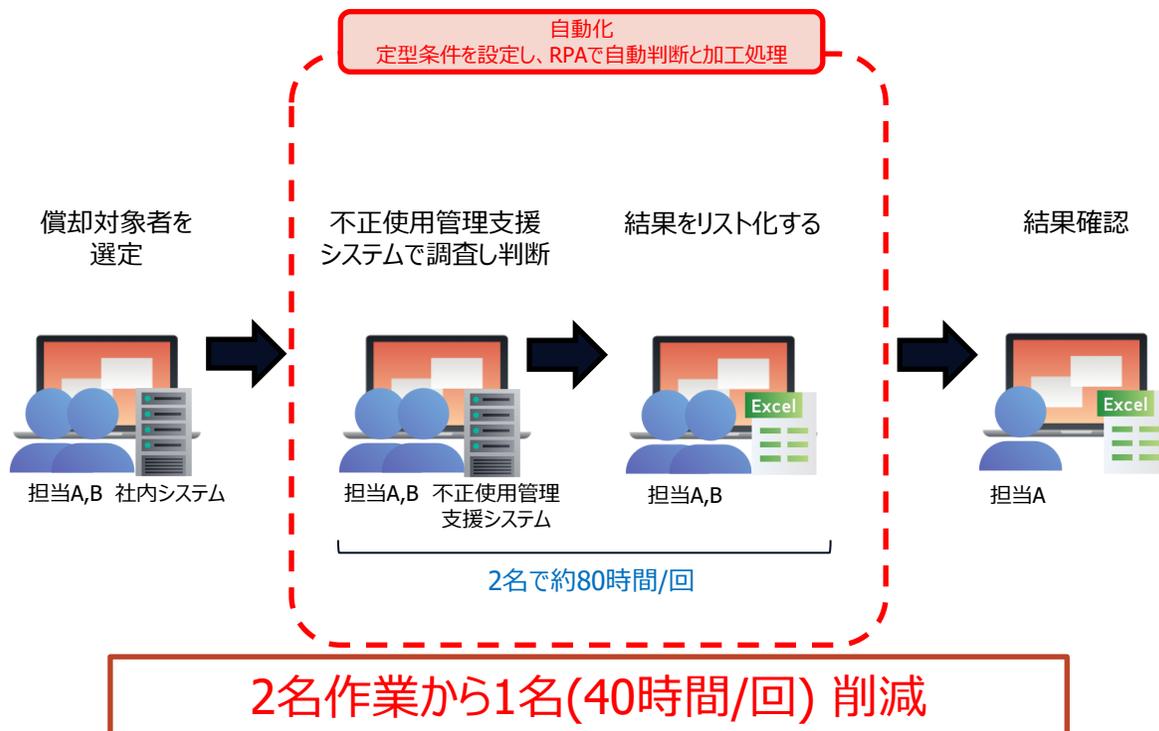


## 金融業、保険業\_(金融)大量の処理件数から償却の差異確認と還元を実施する

細かい作業を手手で、1回あたり会員数百人分の償却状態確認と準備のため行っていた。

時間限られているうえ不備があると大きな問題へ発展するため、人手を割いて対応していたが、処理件数と作業工程が多く、比例してミスの確認・修正も多いため時間を要していた。

償却対象者選定までは今まで通り手で行い、煩雑で処理工程が多いシステム内のデータから差異確認と還元実施の可否を決定までを自動化したためミスはなくなり、業務を最初の対象者選定と結果確認に絞ることができ、業務人数が削減することができた。

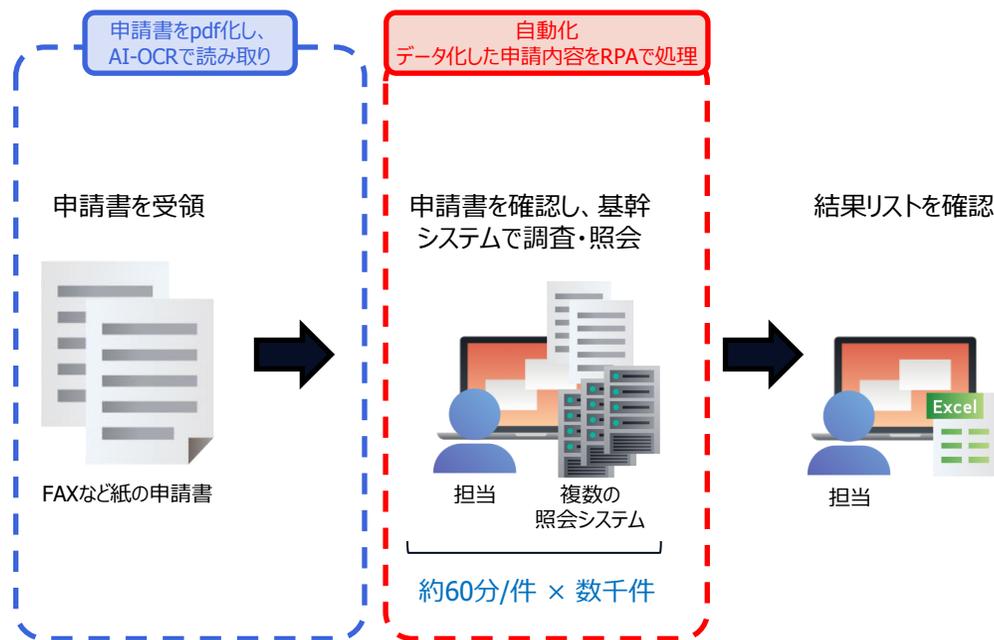


## 金融業、保険業\_(金融)FAXなど紙の申請書について複数のシステムで調査・照会を行う

年間数千件のFAXなど紙で申し込まれた住宅ローンの申請データの調査・照会を行員が手作業で行っていた。

1件ごとに申込書の項目を入力する細かい作業のほか、特に調査・照会を行うため時間も手間もかかり大きな負担となっていた。

そこで、RPAとAI-OCRを導入することで、FAXなど紙をデータ化し、基幹システムとの内容調査・照会を自動化することで大きな負担軽減を実現できた。



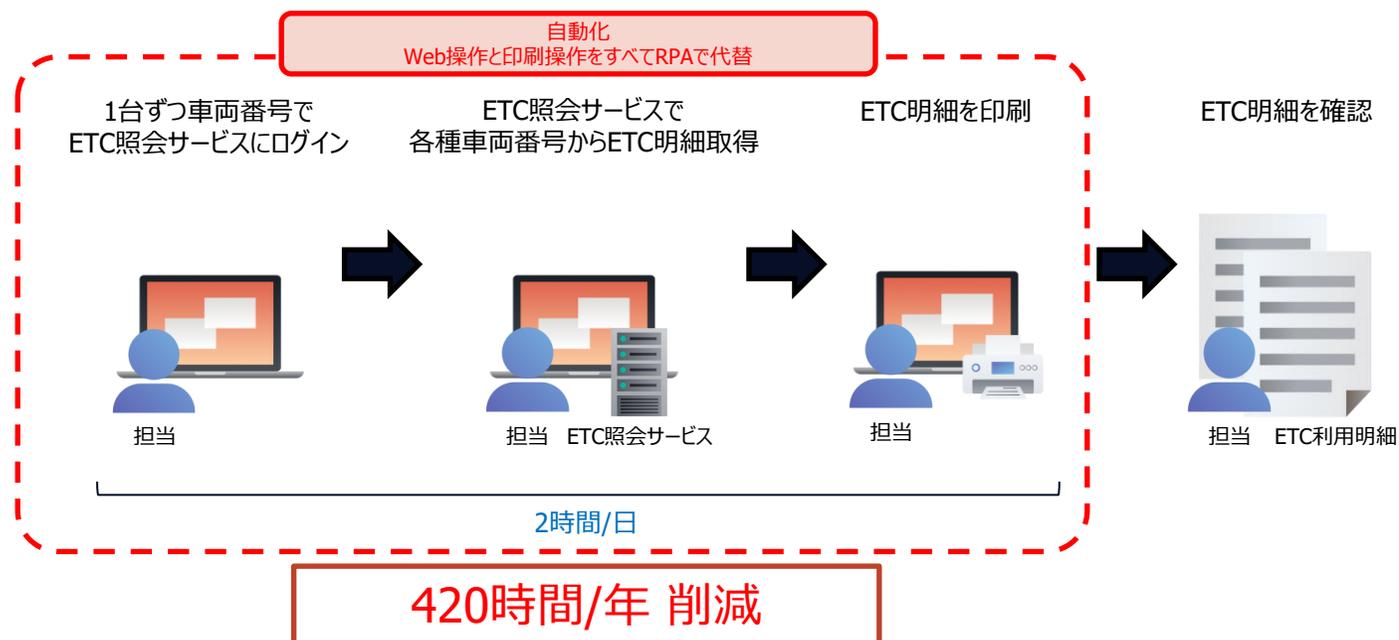
20分/件 業務短縮し年間700時間以上の時間を創出

## 運輸業、郵便業\_(運輸)週十台分のETC利用明細を取得し、確認用にまとめて印刷する

Excelにまとめられた数十台分の車両番号から1台ずつETC利用明細を取得する業務を人手で毎日行っていた。

作業は単純なため精神的負担と、都度ログインと条件設定を繰り返して取得を行うため時間がかかっていた。

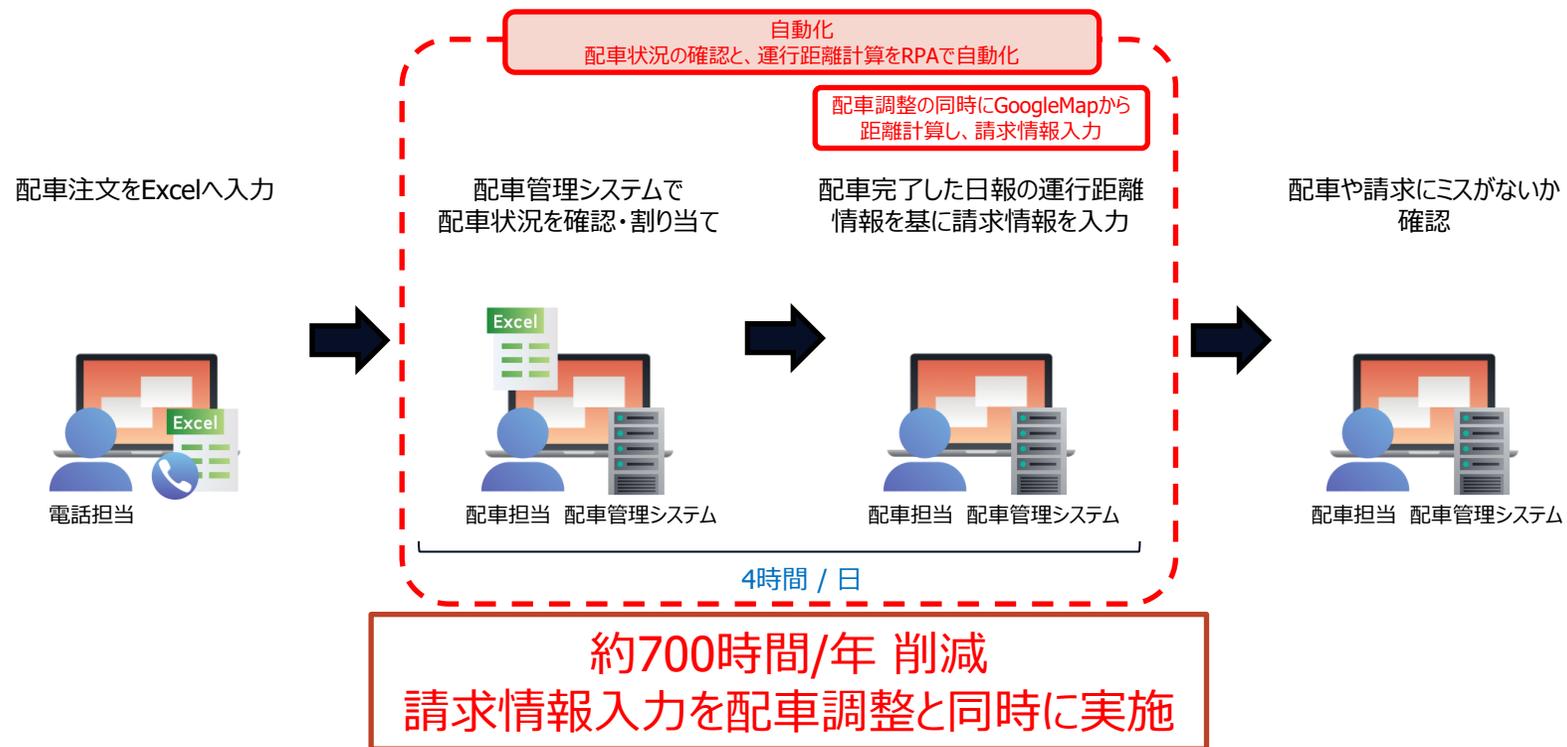
RPAの導入により、車両番号ごとに連続で明細取得を行えるように自動化することで今までの繰り返し作業をなくすことができた。



## 運輸業，郵便業\_(運輸)配車注文情報から配車調整と運行距離から請求情報の入力を行う

電話担当は受けた配車注文をExcelへ入力し、このExcelを基に配車担当が管理システムに手入力で配車及び請求情報入力を行っていた。配車担当は、配車状況を確認し空きトラックを探し状況に合わせて配車を行っており、煩雑で時間がかかる作業となっていた。また、運行距離はドライバーの日報を基に入力しており、不正確だったり受注情報の反映にタイムラグがあった。配車調整と合わせて半日ほど作業時間を要していた。

配車は一定のルールを基に行っているため、RPAの導入で夜間に配車・距離算出(GoogleMap使用)を自動で行うようにし、大幅な業務時間削減と受注の翌日に請求情報を反映できるようになった。

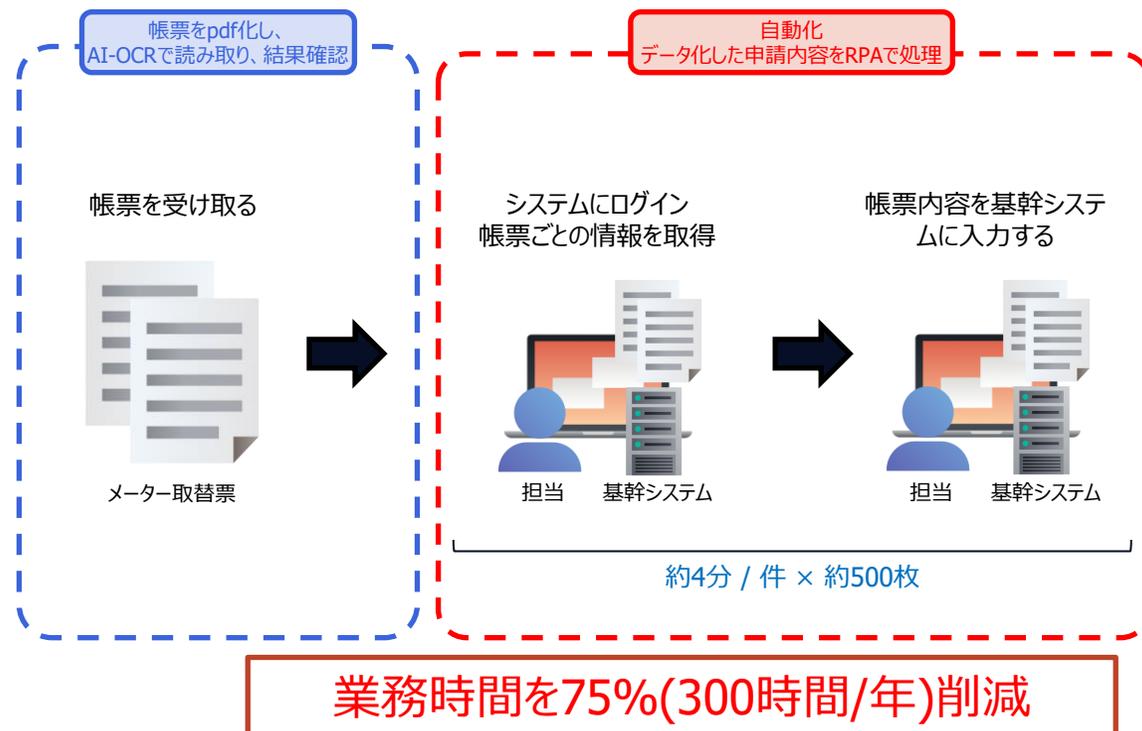


## 電気・ガス・熱供給・水道業\_(ガス)ガスメータの交換情報をシステム登録する

月に数百枚のガスメータ交換票の内容を基幹システムに手入力していた。

帳票ごとに登録情報を呼び出して帳票情報を入力しており、細かい操作を繰り返し行っていた。

RPA、AI-OCRの導入により、帳票のpdf化後は全て自動化することで担当者の負担と業務時間を大幅に削減した。

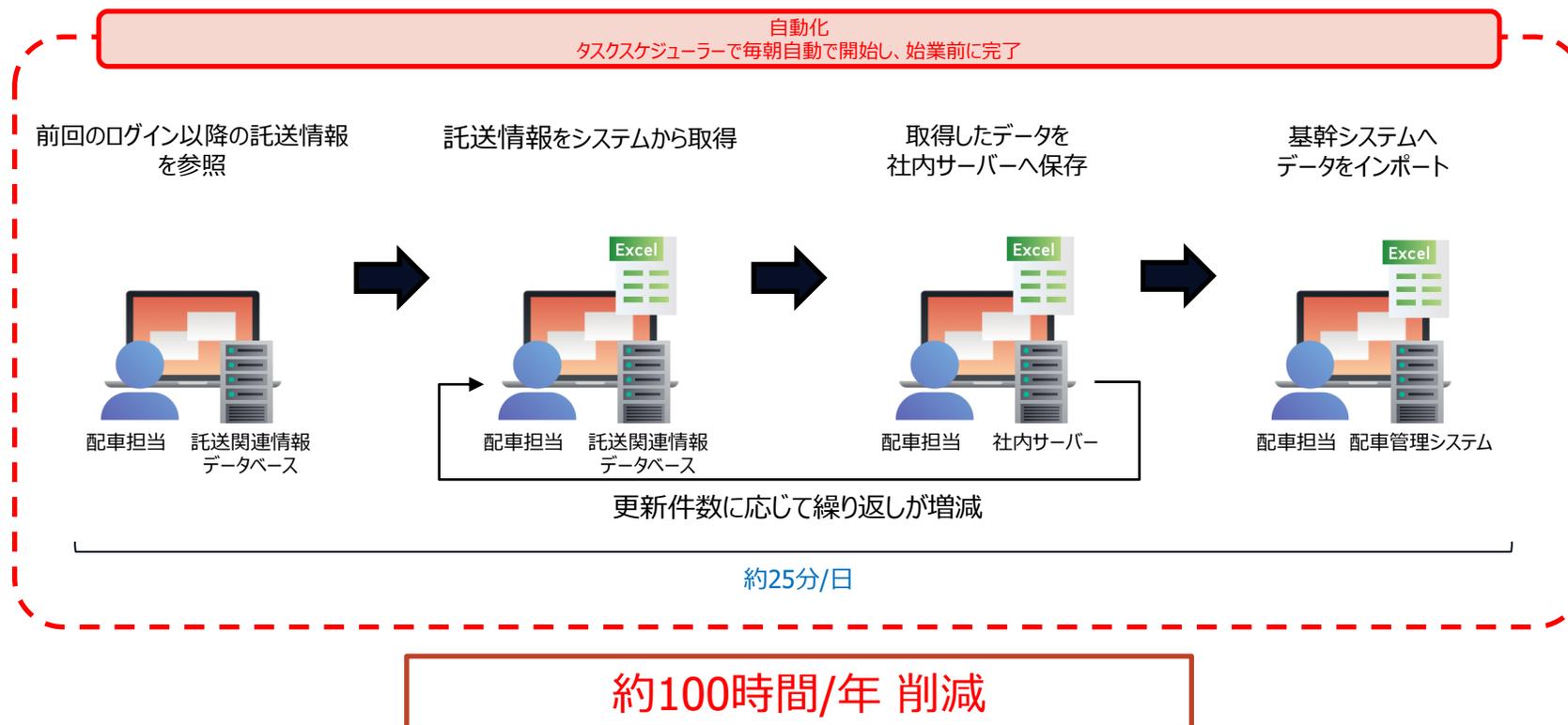


## 電気・ガス・熱供給・水道業\_(電気)毎朝データベースから更新情報取得し、基幹システムに取り込む

基幹システムの電力検針データを更新するため、毎朝データベースからデータを取得し、基幹システムに取り込む業務を行っていた。

他業務を行う前に実施しなければいけない作業で、その日の取り込むべき量に応じて後の業務が遅れることもあった。

始業前にタスクスケジューラーで一連作業をRPAに実施させることで毎朝出社前に完了させ、稼働時間の削減と他作業開始時間の繰り上げを実現できた。

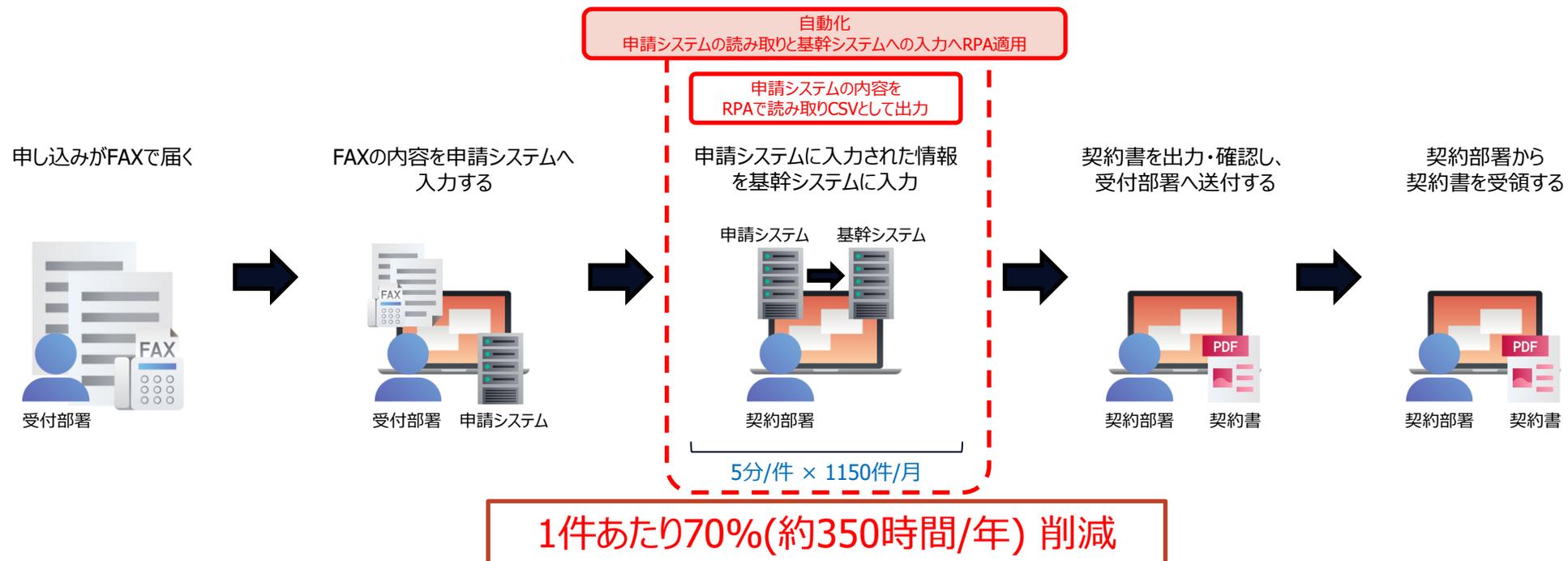


## 不動産業、物品賃貸業\_(不動産)新規契約情報を社内基幹システムに入力し、契約書を作成する

テナント賃貸の申込がFAXが届き、受付部署が申請システムに情報を入力及び契約書作成依頼を行い、契約部署が申請システムに入力された内容に基づいて社内基幹システムへ契約情報の入力と契約書作成を行っていた。

年間で1万数千件の処理があることと、申請システムと基幹システムの入力は細かいため時間がかかっており、内容が被る部分も多く二度手間となっていた。

契約部署にRPAを導入することで、申請システムに入力された内容をCSVに出力させ、基幹システムの入力までを自動化することで、契約書出力時の確認を行う前までの業務を短縮できるようになった。

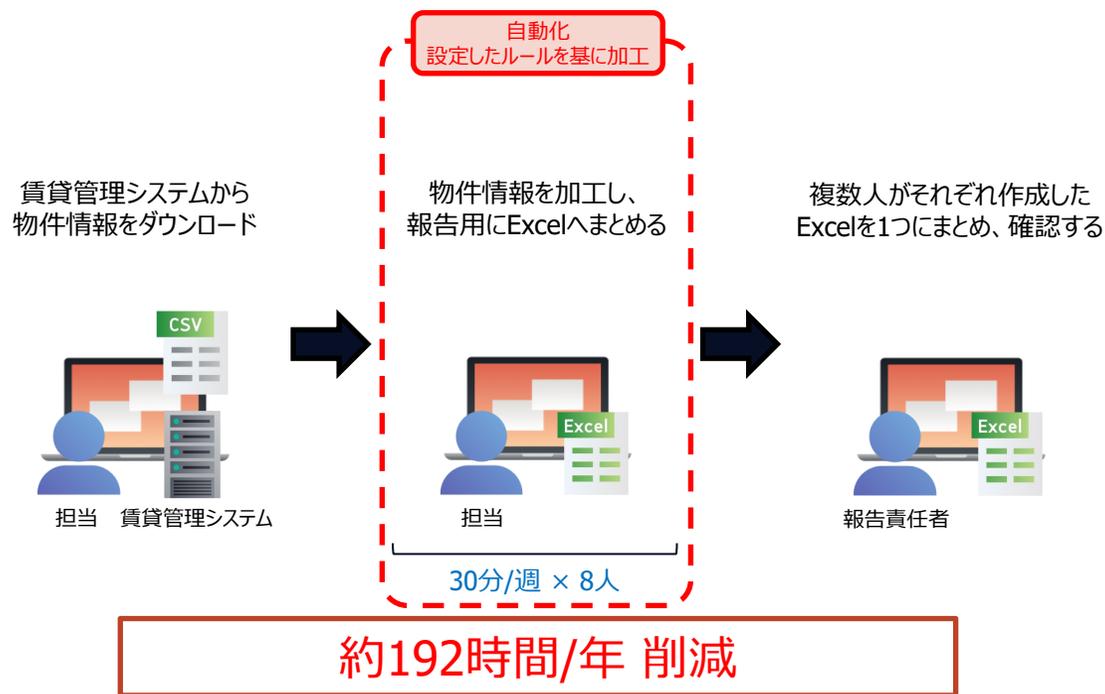


## 不動産業、物品賃貸業\_(不動産)物件情報をエクセルにまとめ、報告用に加工する

空室などの物件情報を賃貸管理システムからダウンロードし、週次報告用にExcelへまとめる業務を行っていた。

確認数が多く、情報の取捨選択を行うことから処理に時間がかかるため複数人で分けて行っており、毎週報告のために時間を要していた。

RPA導入を行う際に必要な情報をルール化し、週次報告用Excelの出力まで自動化することができるようになり、最初のダウンロードと報告責任者の確認のみで済むようになった。

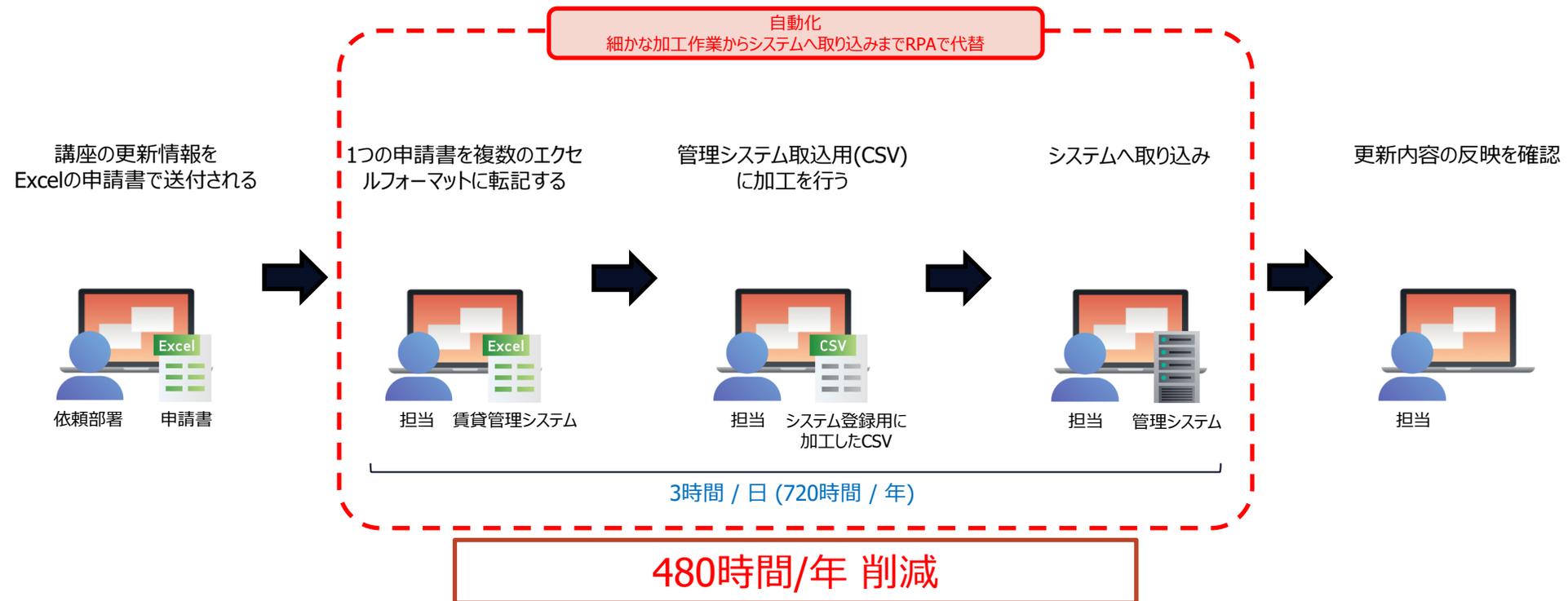


# 教育, 学習支援業\_(学習塾)都度行われる講座情報の更新依頼を、加工を行ってから管理システムに取り込みを行う

Web公開している講座情報の更新依頼が来るたび、更新処理を行う業務を毎日行っていた。

更新依頼はExcelの申請書で提出され、講座情報の管理システムへの反映に、細かい単純作業を行っていた。

特に時間がかかっていた加工作業を中心に自動化したことで大幅に稼働時間を削減でき、単純作業をなくすことができた。

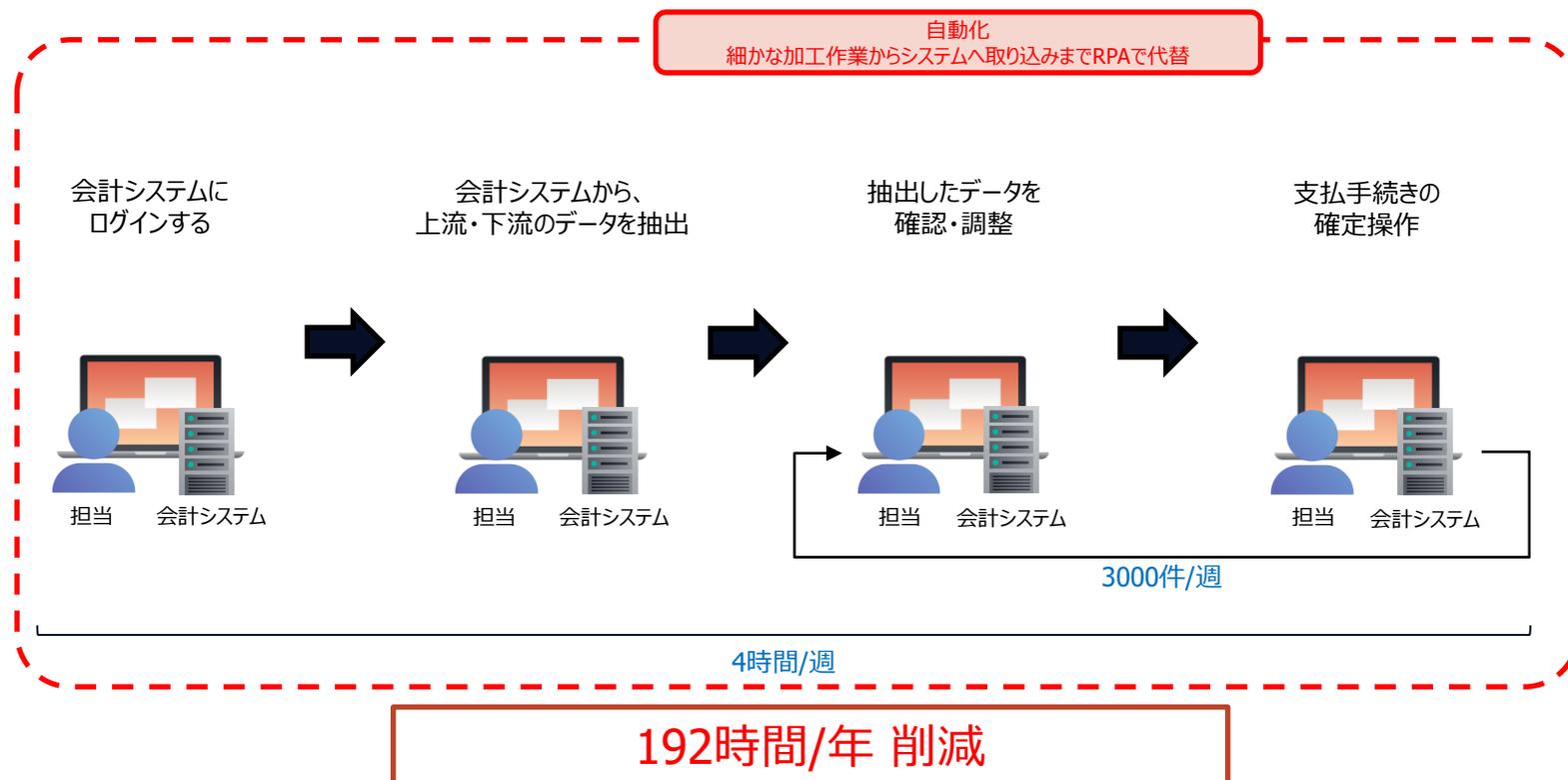


## 教育、学習支援業\_(学校法人)支払い手続きのため、会計システムのデータを確認・調整し、確定する

支払い手続き運用している会計システムでは、システムの上流と下流にあるデータの調整が必要で、実施していた。

週1回数千件を対応しており、単純作業を人手で行っていた。

一連の作業をRPAで自動化できたことで、今まで作業にかけていた時間を削減し、前提とする業務の開始時間を繰り上げて行えるようになった。

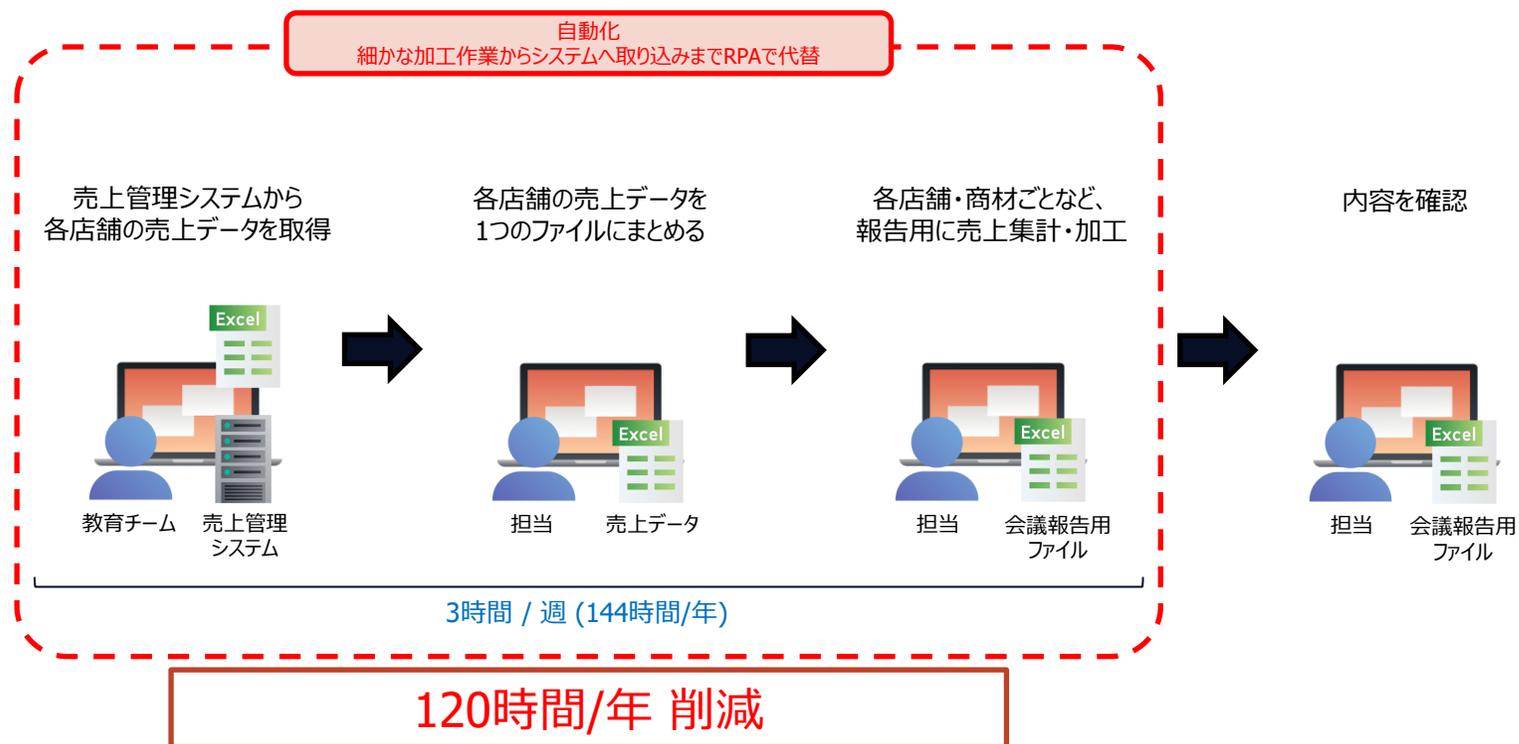


## 複合サービス事業\_(協働組合)複数の売上データから、項目別に集計・報告用に加工を行う

複数の店舗から売り上げデータを取得し、全体及び店舗・項目別に実績を可視化する業務を毎週行っていた。

システムの都合上、店舗ごとに売上データを出力する必要があるため、1つのファイルにまとめる作業を行った後に集計や報告用の加工を行っていた。

RPAを導入し、各店舗の売上データを連続で取得できるようになり、会議報告用ファイル作成まで自動化できたことで、細かい集計・加工作業がなくなり、会議前の情報確認に割ける時間が増えた。

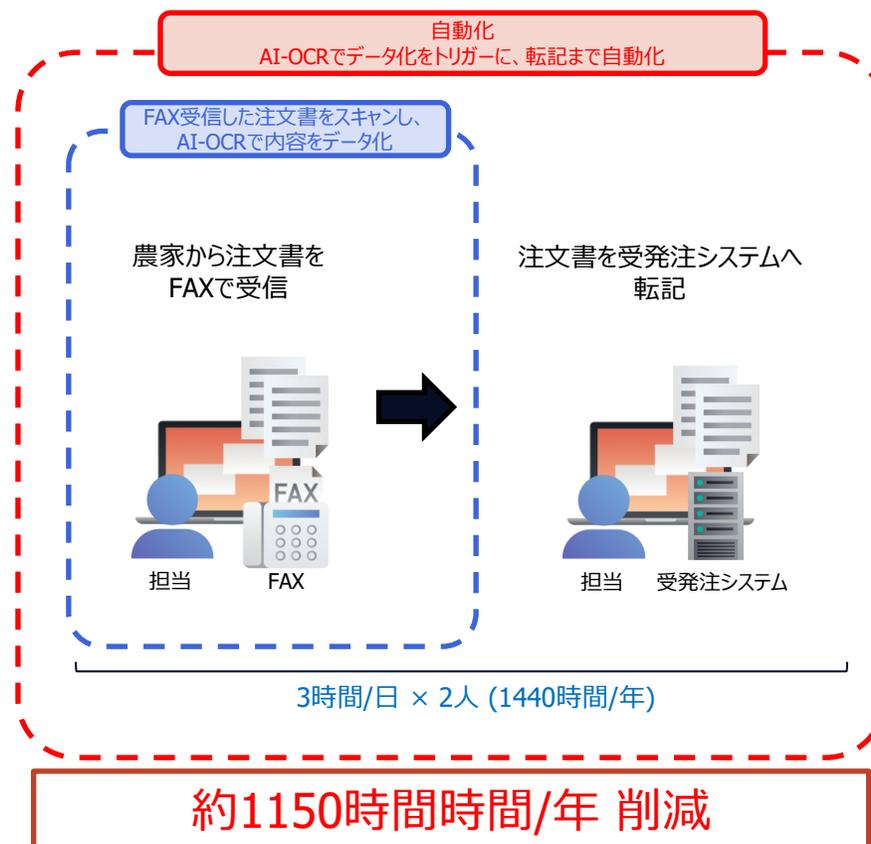


## 複合サービス事業\_(協働組合)FAXで受信した注文書を、受発注システムへ転記する

農家からFAXで受信した注文書を受発注システムに転記する業務を行っていた。

転記作業は全て人手で行っており、量に応じて作業時間が増大し、ミス・漏れがあった。

AI-OCRとRPAを導入したことで、FAXで受信した注文書の大半を自動化できるようになり、大幅な業務時間削減を実現できた。

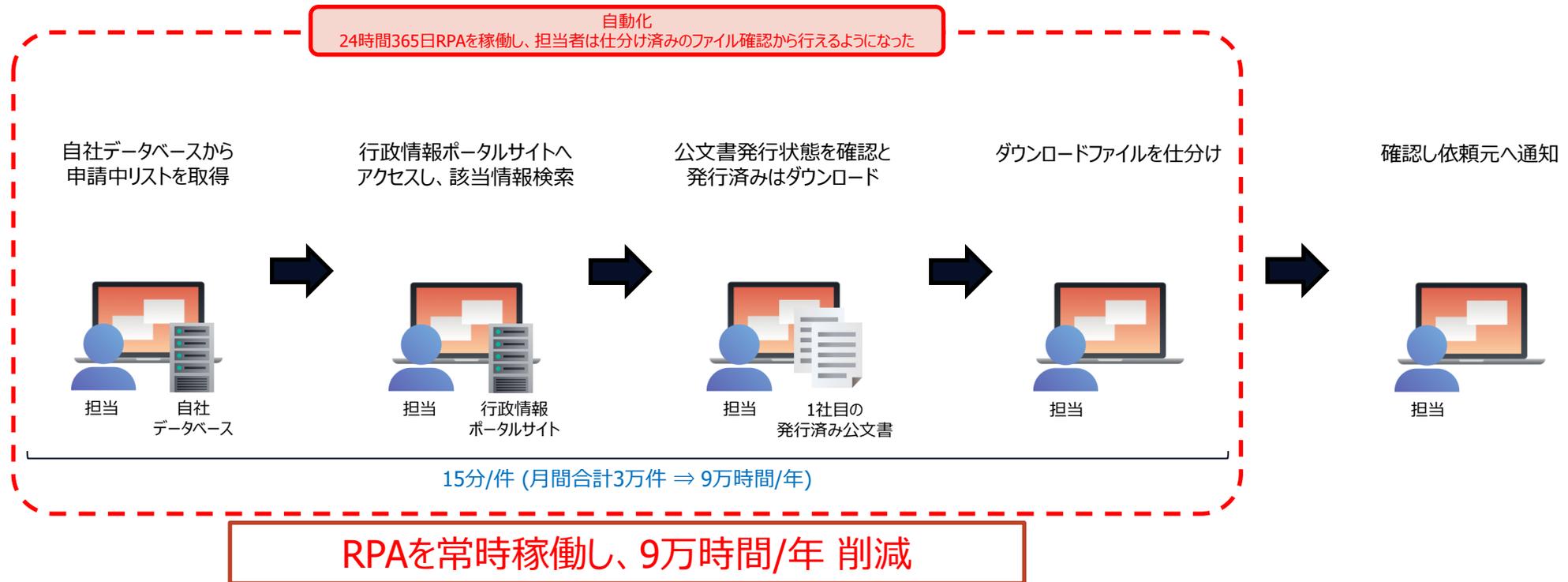


## 学術研究，専門・技術サービス業\_(士業) 公文書の発行状況の確認・ダウンロードし、仕分けて保存する

労働保険や社会保険などに関する書類の作成と申請の代行手続きを、月間に数万件行っている。

公的申請まではデジタル化されているが、申請完了後にデータが正常に受理されたか・決定通知が発行されたか照会する業務は都度手作業で行っており、件数に比例して負担が増えていた。

決定通知の確認・内容照会は定型であったため、RPAを導入し常時稼働させ処理を代行させることで業務時間の削減と確認数の底上げにつながった。

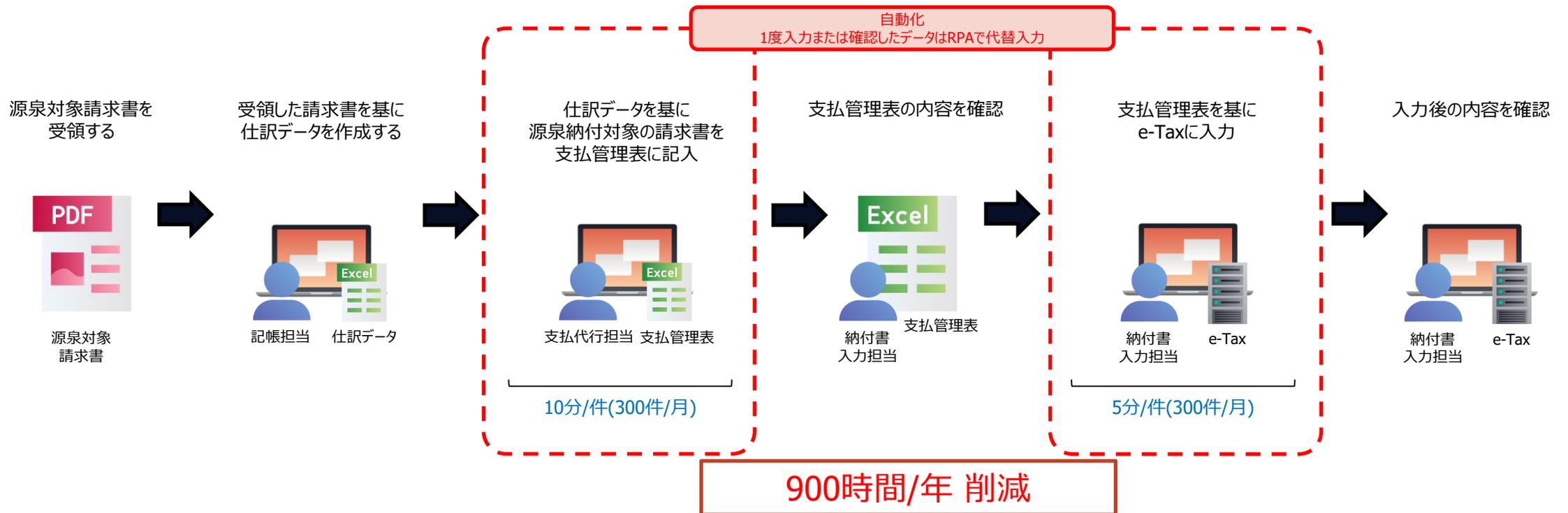


# 学術研究, 専門・技術サービス業\_(土業)受領した源泉対象請求書を仕訳のあと対象を整理し、e-Taxへ入力する

源泉納付管理業務では、受領した請求書に基づいて仕訳データを作成、仕訳データを基に源泉納付対象となる請求書をピックアップして支払管理表を作成、支払管理表を基にe-Taxに入力を行い、最後に内容の目視確認を行っていた。

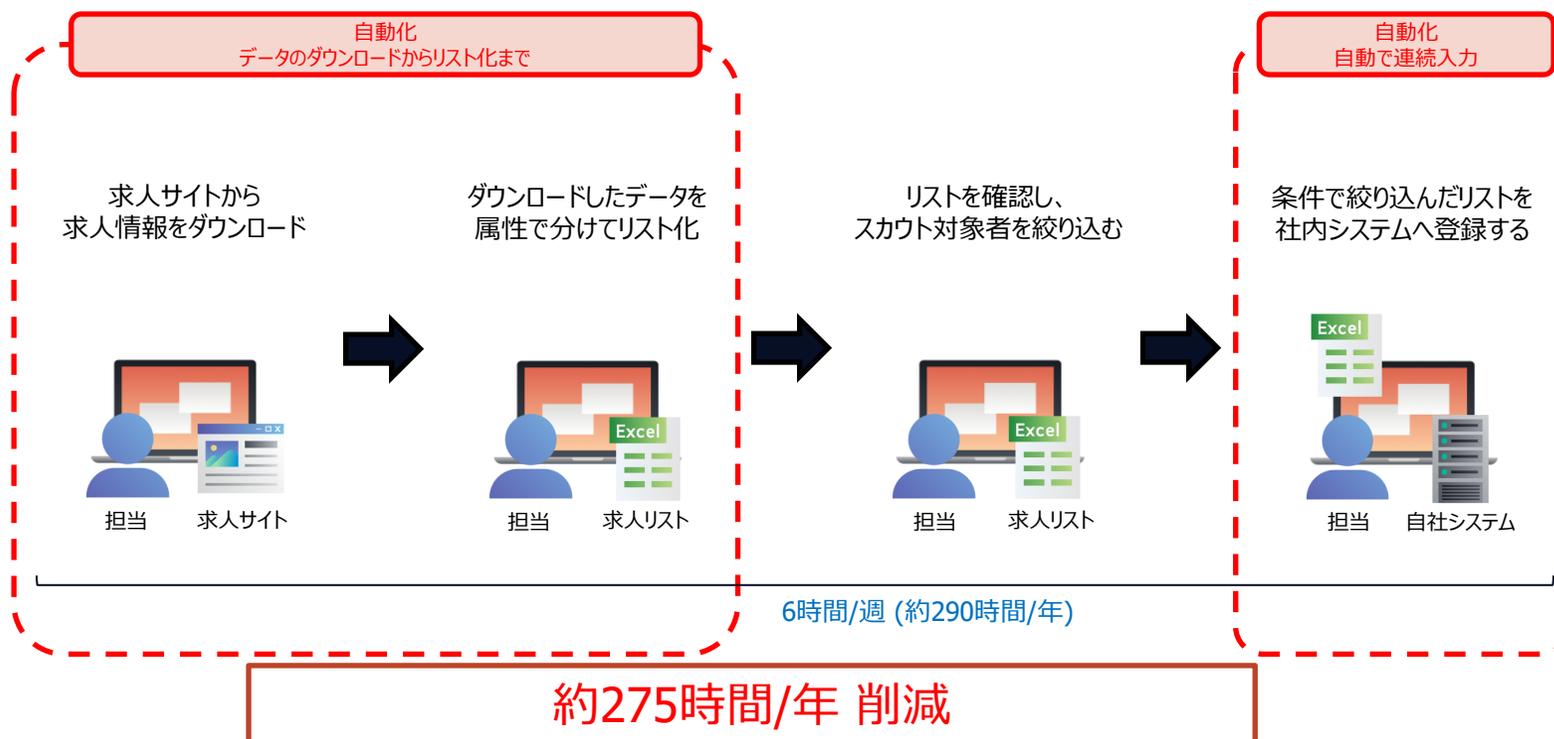
入力内容が同じ形式が違うファイルを作成していたため、複数回同じ情報を入力していた。

RPAの導入で、一度入力または確認したデータはRPAに代替入力させることで二度手間をなくすことで業務時間削減に成功した。



## サービス業（他に分類されないもの）\_(人材)求人サイトから求人情報を抽出し、絞り込み、システムへ登録する

毎週、求人サイトから求人情報を抽出し、条件で絞り込んだものをリスト化し、スカウト候補として社内システムに登録を行う業務を行っていた。属性ごとに分けてリスト化し、1件ずつシステムへ登録を人手で行っていたため、量の応じてかかる時間が増えたり、ミス・漏れが発生していた。RPAを導入し、一連の流れを自動化したことで、営業活動にさける時間を増やすことができた。

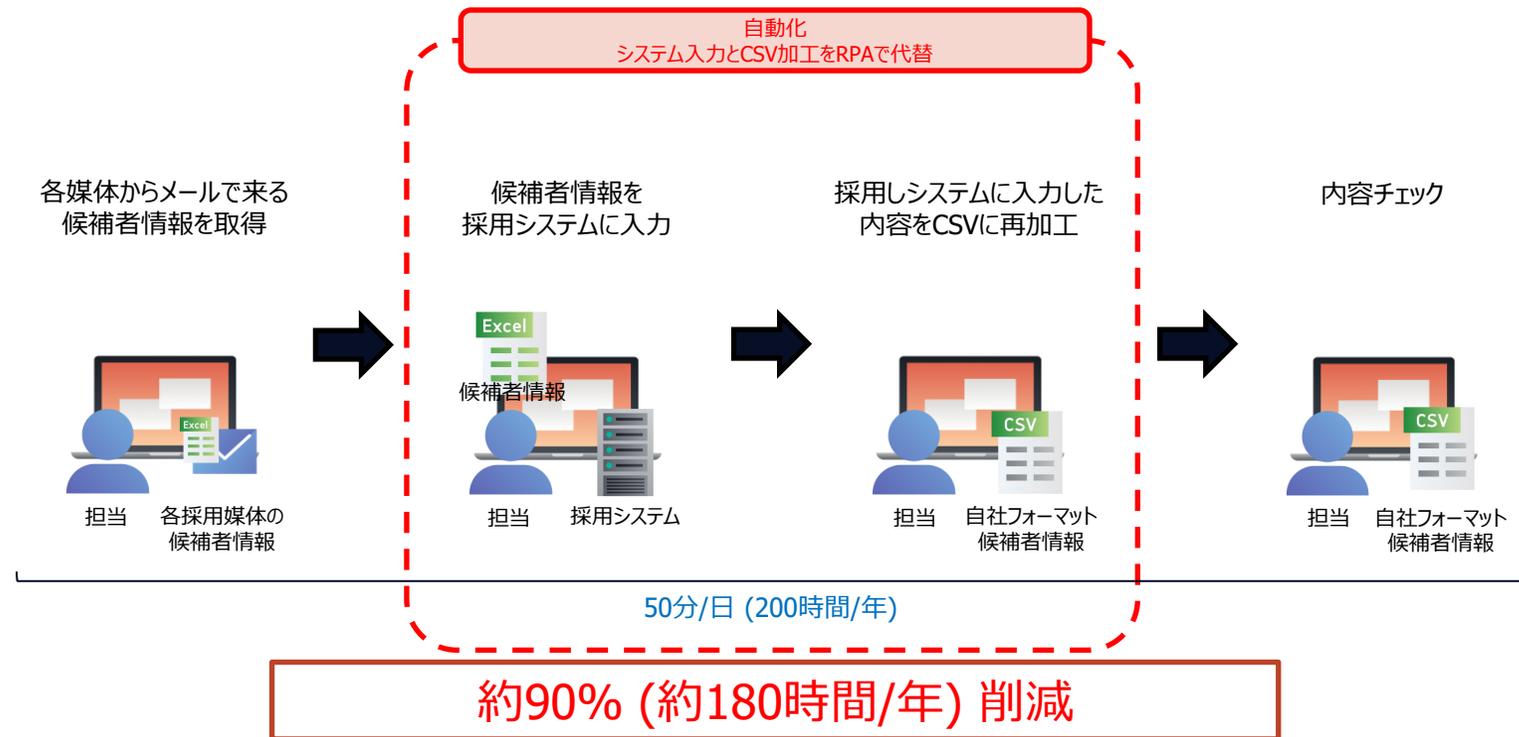


## サービス業（他に分類されないもの）\_ (人材)媒体ごとに異なる形式をシステムに入力し、自社用にリスト化する

毎日、各採用媒体から候補者を取得し、システムへ入力と自社用にリスト化する加工作業を行っていた。

入力項目が多く、どうしてもミス・漏れが発生することから確認・修正の負担が大きくなっていた。

RPAを導入し、各媒体ごとの項目をシステムへ自動転記できるようにし、同時にリスト化作業を行えるようにしたことで、細かい作業による担当者のストレス蓄積を解消し、ミス・漏れをなくすことができた。

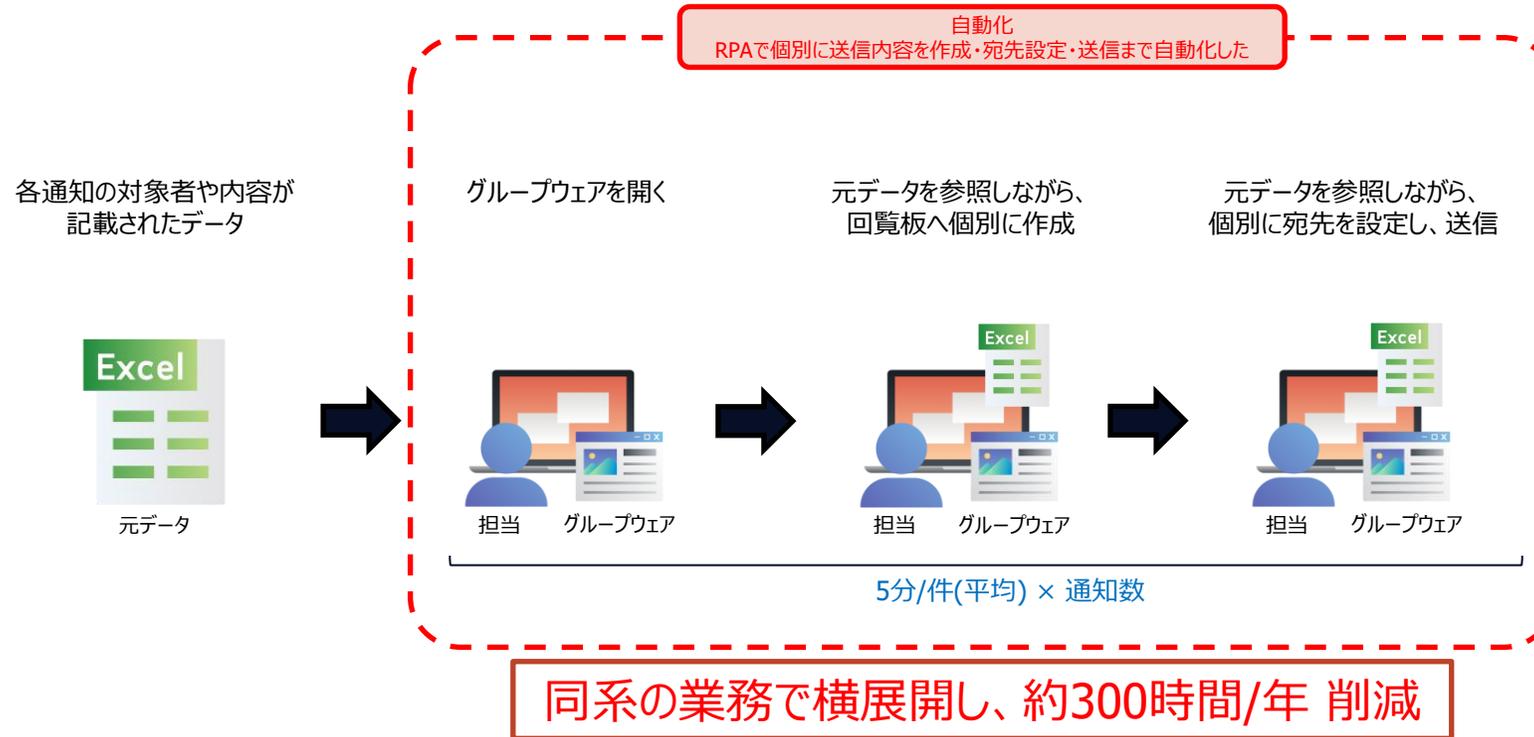


## 建設業\_グループウェアの回覧板(レポート)機能で、1件ずつ個別の内容で個別に通知を行う

個別に内容が異なる連絡が必要な通知を、グループウェアの回覧板(レポート)機能を利用して通知する業務を行っていた。

同じ内容でも個別に変更点があるため、元データから1件ずつ入力して通知を行っており、まとめて送信することができずにいた。

RPAを導入することで、元データから個別の変更点を反映した文章の作成・入力と送信を一度のRPA開始でまとめることで業務時間削減を実現できた。

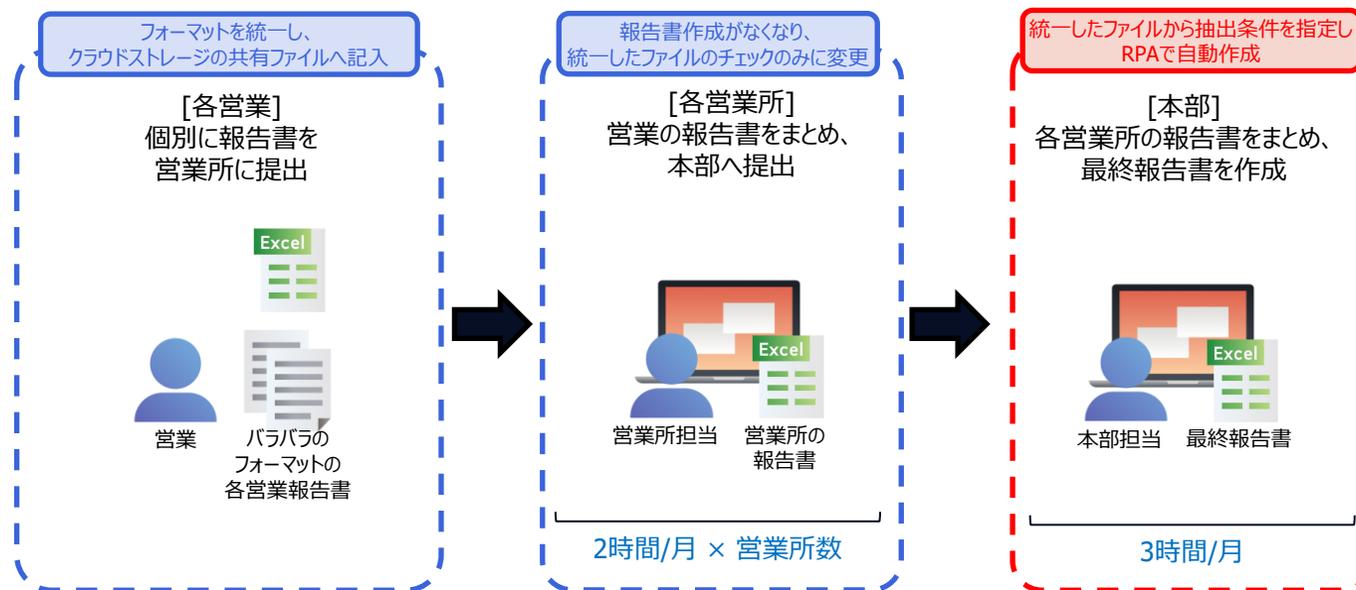


## 建設業\_様式が異なる各営業からの報告書を、営業所・本部でとりまとめる業務(クラウドストレージとの組み合わせ)

各営業から営業所へ、複数の営業所から本部へ、それぞれが報告書作成を行って提出し、本部が最終報告書を作成していた。

営業からの報告書はフォーマットがバラバラのため、まとめることに時間がかかっており、本部の最終報告書も物量が多いため報告のピックアップに時間を要していた。

そこでフォーマットの統一化を行い、報告書はクラウドストレージを活用することで編集ファイルを1つに統一にし、共同編集・追記及び営業所・本部の確認を容易にした。最終報告書はRPAでピックアップ条件を指定して自動作成できるようにすることで、作成時間を大幅削減した。



全体の稼働を90%削減し約250時間削減 (10営業所)